

10万人の

ギャラリー

栄町2丁目にお住まいの宇賀神弘子さんのちりめん細工を紹介し
ます。



▶ 宇賀神弘子さんのちりめん細工の作品

玄関のドアを開けると古布を使っ
た吊るし雛やちりめん細工の置物
が出迎えてくれました。3年前に
古布探しに、リサイクルショップ
に行き、先生と出会い教えてもらっ
たのがきっかけだそうです。

室内にもたくさん飾っており、
見ていて心が癒されます。特に人
形の頭は、一つひとつ良い表情し
ていて触れてみたくなります。顔
に使う布は、化学繊維ではなく、
十分な伸縮性のある絹や綿といっ
た天然素材でなくては上手くでき
ないそうで、それを探すために県
外へ足を伸ばすこともあります。

作品作りで苦労するところを尋
ねると「配色を考えるのが、大変
であり、また楽しみです。出来上
がって色合いが良かったときの嬉
しさはたまりません」と笑顔で答
えます。今、制作を始めた「花ハッ
ポール」に触れながら「同じもの
をあと5本作り、飾っているいろ
な雰囲気が出るような作品にした
い」と楽しそうに話していました。

★作品募集★

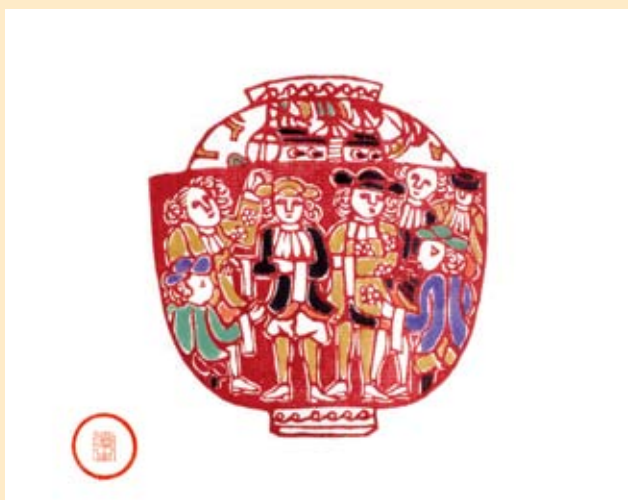
10万人のギャラリーの作品を募集し
ています。絵画、工芸、木版画などみ
なさんの力作をお寄せください。
問い合わせ先 広報広聴係

☎0289-21288

作品介绍 127

川上澄生の世界

この作品は、新潟県柏崎市の黒
船館所蔵のお椀を川上澄生がスケッ
チし、木版画で制作したものです。
スケッチによると、お椀本体と蓋
には、赤地に南蛮人の図柄と、白
地に南蛮船の図柄が、それぞれの
表裏片身替わりに描かれています。
お椀の中で、南蛮人たちが賑やか
に談笑している様子は、ユーモラ
スでもあります。黄、緑、紫など
手彩色で施された色が、赤地に映
えています。



前回、川上澄生作品が民藝大会
の記念品として配付されたことを
ご紹介しました。その澄生の協力
に対し、協会は謝礼を贈りました
が、澄生は、それに対する返礼と
してこの作品を製作し、柳宗悦な
どに贈りました。澄生の律儀な人
柄や、民藝運動に携わった人物た
ちとの心温まる交流が感じられる
エピソードです。

現在開催中の「川上澄生と民藝
展」では、民藝運動に関わったそれ
ぞれの作家の個性をお楽
しみいただけます。棟方
志功の初期作品など、貴
重な作品も多数出品して
いますので、ぜひお見逃
しなく。

学芸員 早川末央

本作品は、2階展示室
で開催中の「川上澄生と
民藝」濱田庄司、芹沢銈
介、塚田泰三郎、棟方志
功と共に「」展に出品さ
れます。

川上澄生美術館からのお知らせ

問い合わせ ☎0289-272

1階展示ホールでは「関根丞治」レ
クシヨン 蔵書票展」を同時開催してい
ます。

「南蛮人物椀」

1954年(昭和29)頃

木版単色刷 手彩色

(寸法 縦12.8×横12.0cm)